

令和6年度 病虫害発生予察 注意報第3号

令和6年6月20日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病虫害 トビイロウンカ
- 2 対象作物 早期水稲、普通期水稲の早植地域
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い

6 注意報発表の根拠

- (1) 6月12～18日の巡回調査では、県北部において早期水稲10圃場中2圃場でトビイロウンカの終齢幼虫を含む幼虫を確認した。幼虫の齢数から5月下旬に海外から飛来した可能性がある。過去10年間でこの時期にトビイロウンカが確認されたことはなく、平年より1か月ほど早い発生であるため、早期水稲においても坪枯れが発生する可能性がある。

早期水稲における発生状況

発生圃場率 : 10.0% (平年 : 0%、前年 : 0%)

株当たり虫数 : 0.1頭 (平年 : 0頭、前年 : 0頭)

- (2) トビイロウンカと同じ海外飛来性のセジロウンカは、県北部と南部において早期水稲10圃場中3圃場で終齢幼虫を含む幼虫を確認した。また、県西部において普通期水稲8圃場中1圃場でセジロウンカの若齢幼虫を確認したことから、県内全域でトビイロウンカが飛来した可能性がある。
- (3) 福岡管区気象台が6月13日に発表した向こう1か月の気象予報によれば、気温は高い確率50%、平年並40%、降水量は多い確率40%、平年並40%と予想されており、トビイロウンカの増殖好適条件が続くと考えられる。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に到達するように散布する。また、畦畔よりも水田の中央部に発生しやすいので水田内をよく確認する。
- (2) 地域によって本虫の飛来時期は異なる場合があるので、本虫の発生を認めた場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 早期水稲においては、出穂期前後の基幹防除に本虫の対象薬剤を選択して防除の徹底を図る。
- (4) 動力散粉機や噴霧機を所有していない農家においては、粒剤散布が簡便で坪枯れ防止には有効である。なお、粒剤散布時には湛水状態とする。
- (5) 箱苗用の長期残効薬剤を施用した場合は2～3か月の効果が期待できるが、降雨が多い場合は残効が短くなる可能性もあるので、本田における発生状況を確認する。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守して使用する。

病虫害対策チームホームページ

[https:// www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/](https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/)

